

令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会
第1回啓発研修部会 会議録

- 1 日 時 令和5年8月24日(木) 19時15分～20時30分
- 2 場 所 オンライン会議
- 3 出席者 吉永部会長、近藤委員、瀧委員、坪井委員、平野委員(臨時)
- 4 傍聴人 0人
- 5 次 第 (1) 開会
(2) 挨拶
(3) 議事
在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職、市民のための研修会について
(4) 閉会

6 会議内容

- (1) 開会 開会宣言及び会議成立の報告
- (2) 挨拶
- (3) 議事

吉永部会長

研修内容について、今回も専門職対象にするのか市民対象にするのか、または、その他の研修を行うかということになるが、専門職対象と市民対象と両方行う話だったか。

事務局

対象としては両方に対して行うが、内容によっては、一緒に行くこともあるかもしれないので、意見を募りたい。

吉永部会長

今、国を挙げてACPの重要性が言われているので、これについて強調していくと、これまで看取りの現場でACPという言葉は聞くが、実際にどの程度、本人が考えて参加しているかと言われると、まだまだであるのは現場の印象。そういったことを考えると、もっと普及させて、患者や家族にも、もっと知ってもらわなくてはいけない。テーマとしてACPということで、今年も進めていくということでもよろしいのではないかと思うが、何か他のテーマや、やった方がいいテーマはあるか。

ACP関係のテーマでもいいし、ACPを離れて、やっておかないとならないテーマがあ

れば意見を伺いたいがいかがか。

平野委員

県の医師会と重なってくるのはやむを得ないと感じるが、テーマに関してはACPでもいいと思う。今回は聴講とグループワークを行ってはいかがか。地域の親睦を深めることも含めて、そこも大事ではないか。

テーマに関して言うと、疾患別とか、地域リハビリをテーマでということだったが、ACPの話を、グループディスカッションでテーマにするというのはいいと思う。具体的にどうするかはこれから考えなくてはいけない。

瀧委員

ACPに関しては、まだ医療職としては、知識として持ち合わせていないので、ぜひやってほしい。ACPと看取りは切っても切り離せないところなので、一緒に考えていくことが最終的な目標になると思う。対象は、専門職も市民もまだACPに関しての知識と普及がまだ進んでいない状況だと思われるので、どちらを対象にしてもいいのではないか。その中で、グループワークは専門職のグループと市民のグループに分けて思いや考え方を出し合い、その場で共有できるというのも面白いのではないか。

吉永部会長

そうすると、ディスカッションがあった方がいいということにもなるが坪井委員はいかがか。

坪井委員

看取りとなると、訪問看護で行っている家では一人暮らしが多いので、在宅での看取りを考えている人ばかりではない。ACPの中で言うと自宅ですべて生活していくためにどうしていったらいいのかということを含めた話も、あればいいのではないか。

静岡県で、ACPの研修があるので協力のような形でできるのもいいと思う。

吉永部会長

事務局では、ACPをどう思うか。在宅医療においては、まだ普及できていない。医師が主導して、本人の希望を言ってもらおうと考えているが、あまりできていない。実際の現場では、医師の意見が先行してしまう。ケアマネの立場として、今回のテーマについて、ACPと看取りということで考えているが、近藤委員は他に強調したいところとか、あるいは全然違う分野でもよいが意見はあるか。

近藤委員

ACPは差があり家族で話し合っ、在宅でという方もいるし、全く何も考えてなく、最後になってバタバタしている家族もあるなど、差が大きい。ケアマネジャーも説明ができる

かということ、できていない。現場で医師の力を借りたりするが、家族に理解が浸透していくところまでなかなか説明ができていないのが現場の実感、一通りは説明しているが本当に受け止めてくれているのだろうかと感じることがあるので、やはりケアマネジャーも毎年ACPの研修があつて参加しても、それを現場で自分がやるとなると力不足だと感じている。いろんなケースがあるから、一通り勉強しても自分が現場に立ち会ったときに全部できるかということなかなか難しい。前回の平野委員が事例を使って説明してもらえたのが、すごくわかりやすかった。

吉永部会長

今回、県でどういう形で行われるかは具体的なことはわからないが、ACPに関する全体的な説明とか概念的なものとか、エンディングノートを作成することなのでこのように活用していくという具体的な案とともに一步踏み出した形を提案できると思う。それと同時に、ACPが現場でこのように行われたという具体的な例を紹介してもらおうというのもいいのではないかと。静岡県の研修会はいつ頃に決まるのか。

事務局

11月のACPの専門職向け研修会は、日付と講師は決まると聞いているが、内容や進め方はわからない。さらに2月の研修会は、まだ講師も決まっていないと聞いている。

吉永部会長

ACPに関することでは事例優先という意見も出ているので、異論ないのではないかと。他にいろんなテーマを加えることもできるので、ウェブ併用で集合形式で行うことでよいのではないかと。

開催時期は来年の1月か2月ということであれば、静岡県の専門職向けの研修会が終了している状況ということになる。

事務局

本年当初の協議会では、本日の部会にて専門職向けの研修内容について話し合い、10月頃に実施し、追って市民公開講座について検討する予定であったが、専門職向けと市民対象を同時に行う場合は、本日の部会にて大方の計画を検討していただきたい。

吉永部会長

専門職向けと市民向けを別々に行うか、一緒に行うかを決めてしまえばスケジュールも決まってくると思う。県で専門職向けがあり、市民向けがあつても、我々が県に準ずることはないと思う。専門職は、事例に学ぶところはあるだろうし、市民はその事例を通してより実感が湧いていくだろうとも思うので、専門職向けと市民向けの両方含めてやっていくので、どうかと思うが平野委員いかがか。

平野委員

同感。人生最後のACPだが、対人援助の仕方は一般も専門職も、成功例を含め磨き上げてレベルアップを図っていくということだと思う。1回の会を年明けにするのであれば、あと1、2回、よく話し合って1回で終わりにするのはどうか。

瀧委員

賛成。一般、専門、特に分け隔てなく対象は募っていいと思う。

坪井委員

賛成。一般と専門職からいろんな意見を聞ける。

近藤委員

賛成。一緒の方がいい。

吉永部会長

全員一致で、専門職と市民の合同開催とする。全部は決められないが、イメージとしては最初にミニレクチャーのようなものがあり、その後に専門職と一般が交わったグループワークで意見交換していくということによろしいか。

平野委員

同感。初めての人が集まっても、なかなか意見が出てこないのので、最初の20～30分くらい聴講形式でACPの対人援助の話をして、その後、何か一つのテーマについて会場とオンラインでグループワークを行う方が、実りがある。

吉永部会長

これに関しても、2部構成でミニレクチャーと、グループワークを進めてくということによろしいか。

吉永部会長

平野委員に具体的なその後のディスカッションに繋がる最初のレクチャーをお願いできればよいと考えるが、いかがか。

平野委員

実例も交えながら、その次へグループディスカッションに繋げるような形でレクチャーをする形で、いかがか。

吉永部会長

ここまでスムーズに決まったので、静岡県的一般向けの方の日程が未定なので、そちらが決まり次第、次回以降の日程を絞っていきたい。次回、時間配分など具体的な進め方を協議したい。

事務局

本日、話し合ったことについて確認。

内容については、専門職対象と市民対象を同時に1回行う。テーマはACP。

方式については、来場とWebとハイブリッドで行う。

時期は、県の研修の日程が決まり次第、同時期とならないように、かつ、委員の皆様の予定も鑑みながら決めたい。

講師は平野委員にお願いする。

開催までのスケジュールは、随時委員に案内する。

グループワークの進め方は、少人数でオンラインを活用するか、来場によるものとするか、引き続き検討する。それに応じて、会場を検討する。

平野委員

ACP人生会議を焦点にするというのはそれでよいが、対人援助の部分で、元々、市民が健康で人生を楽しむ住み慣れた地域で支える側、見届け家族のその人たちも支えてきた後に、幸せだとやり遂げた、家族のために力になれたという、専門職以外の方がそこに関われるような環境なりそのノウハウのレベルアップを図っていくということが、一番大事だと考える。その部分の話も少し取り込みながら入れていきたい。最後の人生のところだけにスポットを当てるだけでなく、その前の段階から、いろいろな話をしたり、家族でも意外と話し合っていないようなところも含める援助というか、お互いが支え合っているというところにも、スポットを当てながら話を進めるのも大事と考えている。

吉永部会長

いかに死ぬかというところを突き詰めていくと、いかに生きるかというところに繋がってくる。そういったことに焦点が当たっていくのではないかな。

次回の部会については、県の日程が決まり次第連絡をもらい、またメールにてこちらの部会のスケジュールを調節するという事によろしいか。(異議なし)

開催日程は未定だが、例えば土曜日の午後やるとしたときに、長すぎないように、1部で30～40分ぐらい話をし、2部のところから1時間ぐらいのディスカッションを行う。最後にまとめを行って締め、全体としては2時間ぐらいのイメージでよいと思う。

事務局

講演会の日程が決まってから、スケジュール調整をさせていただきたい。また、周知の方法もご検討いただきたい。

協議結果の決定事項

(1) 研修内容

- ・専門職対象と市民対象を同時に行う(1回のみ)

(2) 研修会のテーマ

- ・ A C P（人生会議）
- (3) 開催方法
 - ・ 集合と W e b のハイブリッド開催
- (4) 開催時期
 - ・ 静岡県主催の研修日程が決まり次第決定
- (5) 講師
 - ・ 平野委員
- (6) 開催までのスケジュール
 - ・ 静岡県の日程が決まり次第、随時各委員へ案内

■会議録確認署名

「令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第1回啓発研修部会 会議録」について、内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 啓発研修部会 部会長

氏名 (署名)

吉永 清子